

これからの 低栄養診断

—GLIM基準を深く理解し活用する

特集にあたって

低栄養の存在は入院、地域を問わず健康障害に直結するのみならず、治療を阻害し、入院期間の延長、医療費の高騰、生命予後の悪化につながります。対象者に適切な栄養管理を行うためには栄養状態の評価が必須であり、集団のなかから栄養障害のリスクがある者を抽出する「栄養スクリーニング」と、身体検査および栄養に関連した検査を通してより詳細な情報を収集し、実際に栄養上問題があるかどうかを判断する「栄養アセスメント」を行い、その後のゴール設定、具体的な介入内容の決定、モニタリングといった栄養ケアプロセスにつなげていくことが求められます。

令和6年(2024年)度診療報酬改定では、回復期リハビリテーション病棟入院料1において、世界各国の栄養の専門家のコンセンサスにより作成されたGLIM基準を用いた入退院時の低栄養診断が必須となるなど、これまで曖昧にされてきた栄養評価法を統一化する動きが加速しており、今後、GLIM基準を正しく理解し活用することは病院管理栄養士にとって必須のスキルになることが予測されます。

本特集では、これからの低栄養診断における共通言語となるGLIM基準に焦点を当て、本領域のトップランナーの先生方にご解説をいただきます。明日からの適切な栄養管理に向けた一助となりますと幸いです。

(編集部)

企画協力：上島順子/NTT東日本 関東病院 栄養部